



きざき

題字：寺尾 貞男 氏（笹山）

令和2年9月10日



令和2年度 第4号

数値化

校長 増井 一久

私が小学生のころ、密かに流行っていた占いがあります。2人の相性を数値化する占いです。例えば、木崎太郎さんと笹山花子さんという2人の場合を占うと、右のようになります。

まずはじめに、一番上にひらがなで名前を書きます。

次に、ひらがなを数に変換します。変換の仕方は、母音が「あ」は1、「い」は2、「う」は3、「え」は4、「お」は5です。このようにすると「きざきたろう=212153」、「ささやまはなこ=1111115」となります。

そして、隣同士の数をたし算し、答えを並べていきます。答えが10を越えた場合は一の位の数だけ書きます。

これを段々に繰り返し、最後に100、または、2桁の数になったら占い完了です。ちなみに木崎太郎さんと笹山花子さんの相性度は83%、かなりよい数値です。

冒頭に「密かに」と書いたのは、大抵の子どもはこの占いで自分と誰かの相性を占います。これは絶対に人に見られたくないものだからです。しかし、よく考えてみればこの数値が相性度であるという根拠は何一つありません。もし、名前の順を入れ替えれば別の結果が出てしまいます。でも、当時の子どもたちはこの結果に一喜一憂しました。

私たちの身の回りにはたくさんの数があります。パッと見ただけで分かる数もありますが、計算や測定によって導かれた結果の数もたくさんあります。ですが、なかなか数値化しにくいものもたくさんあります。

新潟日報に数値化に関して驚きの記事が掲載されていました。

「社員の『幸福感』計測 ～日立がアプリ開発～」(令和2年6月30日)という記事です。疲労感、多忙感など、「〇〇感」は個人の感じ方であり、基準が明確で無いため測定できないものとされていました。開発した日立製作所によれば「スマホなどの加速度センサーで社員の体の揺れを測定しながら、同時に1日の各時間の心理状況をアンケートして揺れと幸福感の相関関係を導き出す」とのこと。さらに、人工知能(AI)が必要と判断した時に「仕事を一旦やめ、お話ししましょう!」と同僚との意思疎通を支援する機能もあるそうです。これにより社員一人一人の幸福感だけでなく、職場の活性度も測定可能とのこと。今、製品化に向け83社、4300人が研究に参加し、効果の検証にあたっているそうです。今後はまちづくりや介護、医療の現場にも活用を進めていくそうですので、私たち教育現場にも導入され、子どもたちや教職員の幸福度、学校の活性度が根拠ある数値で示される時代がまもなく到来しそうです。期待も膨らみますが、同時に、AIに指示されて動くことへの不安も拭えません。

今年はコロナ禍により世の中の様子が激変しました。在宅やリモートによる働き方や学び方が一気に広がりました。人々が一堂に会しないことが日常にもなりました。このような状況ですので、詳細なデータに裏打ちされた確かな根拠を数値化し、それによる意思疎通をAIに指示されることも必要不可欠な時代なのかもしれません。

夏休みが終わり子どもたちの元気な声が戻ってきました。まだしばらくは「コロナ禍の新しい生活様式を实践する」ことが求められます。子どもたちは今、夏休みの改修工事でもとてもきれいになった教室で過ごしています。また、これまでできなかった活動も少しずつもとのかたちに戻しつつあります。引き続き当校の教育活動へのご支援をお願いいたします。

きざきたろうささやまはなこ
 2 1 2 1 5 3 1 1 1 1 1 5
 3 3 3 6 8 4 2 2 2 2 2 6
 6 6 9 4 2 6 4 4 4 4 8
 2 5 3 6 8 0 8 8 8 2
 7 8 9 4 8 8 6 6 0
 5 7 3 2 6 4 2 6
 2 0 5 8 0 6 8
 2 5 3 8 6 4
 7 8 1 4 0
 5 9 5 4
 4 4 9
 8 3

相性 83%?

学校評価中間報告

「保護者意識調査」にご協力いただきありがとうございます。4月からの教育活動を振り返りました。その結果をお知らせします。

1【資質・能力&授業力】

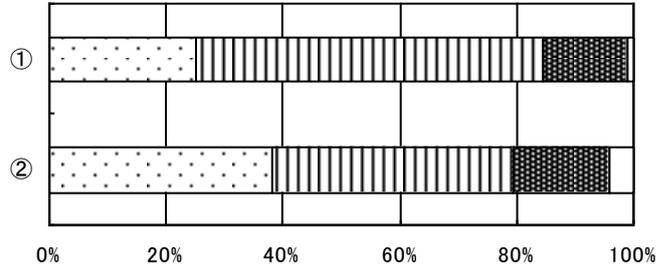
自分で課題を見付け、主体的・協働的に学ぶことについて重点的に取り組んでいます。

グラフの見方  そう思う  まあそう思う  あまり思わない  そう思わない
 「そう思う」と「まあそう思う」を肯定的評価として捉えています。

<保護者意識調査>

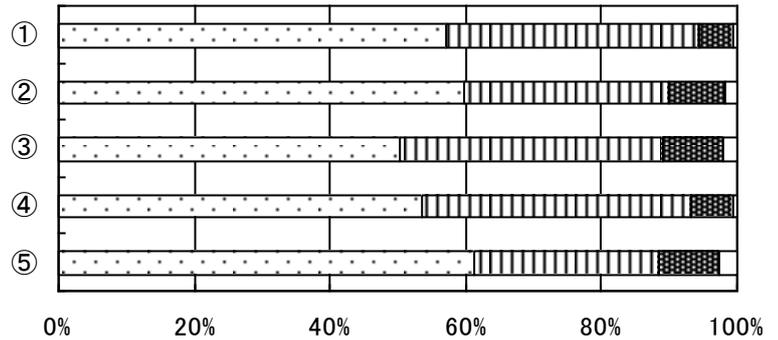
() 内は、前年度比 (△プラス・▼マイナス)

項目	肯定的評価の割合
① 学校の勉強の内容が分かっていますか。	84.6% (▼2.1%)
② 「10分×学年」の家庭学習の声掛けや確認をしている。	73.2% (今年度新設)



<子どもアンケート>

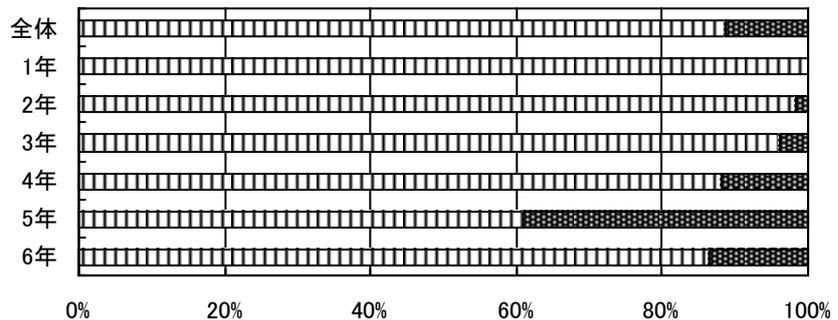
項目	肯定的評価の割合
① 国語の勉強は、分かりますか。	94.4% (△2.2%)
② 算数の勉強は、分かりますか。	89.9% (▼0.3%)
③ 授業中、論理的に考え表現するためのスキルを使って、学習内容がよく分かったと感じていますか。	89% (△0.4%)
④ 生活科・総合的な学習の時間で調べたいことを見付けて学習していますか。	93.2% (今年度新設)
⑤ 自分で計画を立てて、「学年×10分」の家庭学習をしていますか。	88.3% (今年度新設)



○家での1日の勉強時間について (; 10分×学年している ; 10分×学年してない)

() 内は、前年度比 (例：2学年は1学年時との比較。3学年は、2学年時との比較)

学年	肯定的評価の割合
全体	88.6% (▼2.2%)
1年	100% (今年度入学)
2年	98.3% (△0.1%)
3年	96% (△3.5%)
4年	88.2% (▼4.9%)
5年	60.9% (▼24.1%)
6年	86.4 (▼1.7%)



<今後に向けて>

木崎小学校では、今年度「自ら課題を見付け、主体的・協働的に学ぶ子どもの育成」を目指して、生活科・総合的な学習の時間を中心に学習活動を行っています。生活科や総合に限らず、友達と関わり合いながら主体的に学習を行うことは、学習内容の定着や学力向上にはとても大切です。

今回のアンケートの結果をしてみると、「学習内容が分かっている」に対する結果評価では、保護者の評価で84.6%、児童の評価で国語94.4%、算数89.9%と、昨年度同様の高い評価が得られました。昨年度から、学年に応じた『学びのスキル』を各教室に掲示し授業に取り入れ、論理的な表現を通して学びが深まる指導の工夫をしています。その結果、学びのスキルを使うことで学習内容がよく分かったと感じる児童が89%と、高い評価でした。

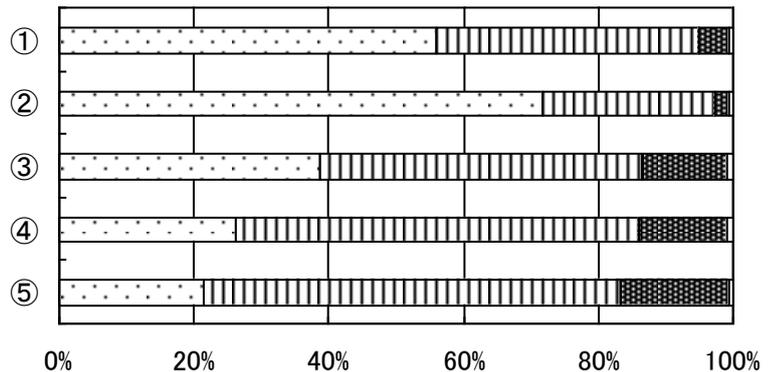
家庭学習については、毎日帰りの会の10分間を「ステップアップタイム」として、全校で家庭学習の計画を自分で立て、スムーズに家庭学習に取り組めるように働きかけています。88.3%の児童が自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいます。家庭学習に取り組むよう、声掛けや確認をくださっているご家庭は73.2%でした。いつもあたたかいご支援をいただきまして、ありがとうございます。「学年×10分」の家庭学習の目安の時間を達成している児童は、全校で88.6%と昨年度より少し下がっているものの、下学年ではほとんどの児童が達成しています。上学年になるに連れ、家庭学習の時間も長くなります。学年に応じた家庭学習に取り組めるよう、引き続き指導していきたいと考えています。ご家庭でもお子さんの家庭学習の取組について声掛けや確認をしていただき、お子さんの成長を一緒に見守っていただけますよう、今後ともご協力よろしくお願いたします。

2【自立&支持的風土】 木崎小の合い言葉「時間を守ります・元気にあいさつします・静かに聞きます」等生活目標の徹底と、よりよい人間関係づくりに重点的に取り組んでいます。

グラフの見方  そう思う  まあそう思う  あまり思わない  そう思わない
 「そう思う」と「まあそう思う」を肯定的評価として捉えています。

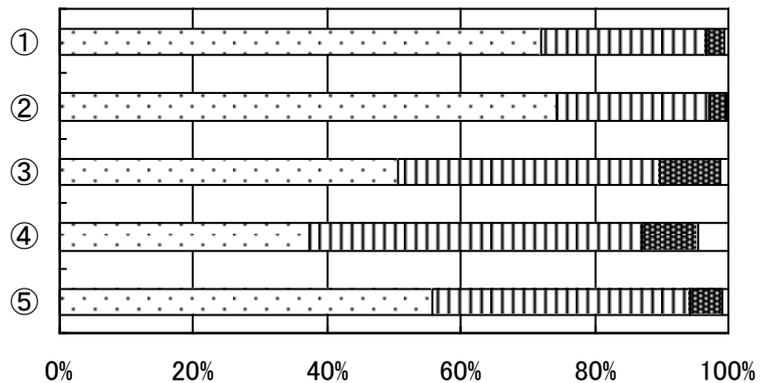
<保護者意識調査>

項目	肯定的評価の割合
① 学校に行くのが楽しそうである。	94.9%
② 学校に仲のよい友達がいる。	97.3%
③ 家族や地域の方にあいさつをしている。	86.6%
④ きまりや約束を守っている。	86.1%
⑤ 周りの人のことも考えて行動している。	83.4%



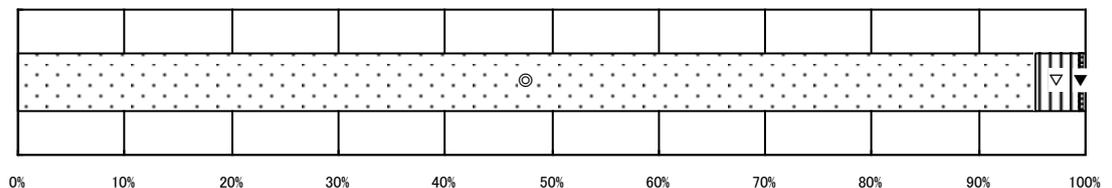
<子どもアンケート>

項目	肯定的評価の割合
① 学校は楽しいですか。	96.6%
② 学校に仲のよい友達がいま すか。	97.3%
③ 学級会で自分たちのことについて考え、解決しようと話し合 っていますか。	92.5%
④ 自分にはよいところがあると思 いますか。	86.9%
⑤ 自分のことだけでなく、周り の人のことも考えて行動してい ますか。	94.4%



○ いじめの有無 ( : ない  : あった  : 受けている)

	評価の割合
ない	95.3%
あった	4.2%
受けている	0.5%



<今後に向けて>

「学校が楽しい」については、児童が96.6%（令和元年度93.8%）、保護者が94.9%（令和元年度94.1%）の肯定的評価をしています。「仲のよい友達がいる」の肯定的評価は、児童が97.3%（令和元年度98.1%）、保護者が97.3%（令和元年度95.9%）と高い割合です。学校生活が充実している様子が数値から読み取れます。

「あいさつ」については、保護者の肯定的評価が86.6%（令和元年度83.8%）と上がっていて、家庭・地域でも「あいさつ」が身に付いていることがうかがえます。引き続き、家庭・地域・学校が連携・協力して取り組んでいければと思います。

「学級会で自分たちのことについて考え、解決しようと話し合っていますか」については、児童の肯定的評価が92.5%（令和元年度89.5%）でした。今後も、自分の学級の課題について考え、話し合いを通して解決することで、よりよい人間関係づくりや自己有用感を高める指導を進めていきます。

「自分にはよいところがあると思いますか」については、児童の肯定的評価が86.9%（令和元年度86.1%）でした。自己肯定感（自信）は、学習面でも生活面でも重要な要素です。学校では、様々な場面で子どもを褒め、認める指導を行っています。今後もさらに自己肯定感（自信）を高める指導を実施していきます。

「周りの人のことも考えて行動している」の肯定的評価は、児童が94.4%（令和元年度92.2%、平成30年度91.7%、平成29年度92.4%）、保護者が83.4%（令和元年度79.3%、平成30年度77.2%、平成29年度79.9%）で、昨年度よりも上がっていて、思いやりの心を育てることを目標に指導している成果が表れています。

「いじめがあった・受けている」とする保護者は、4.7%でした。児童から事実を確認し、保護者と連携して指導に当たっていきます。

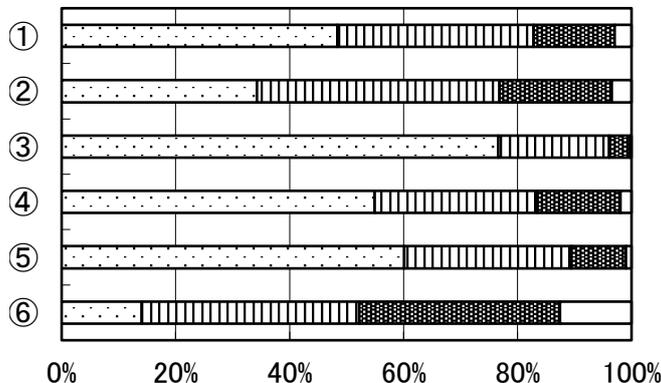
3【体づくり】 食育の充実や生活習慣の改善，体力の向上について重点的に取り組んでいます。

グラフの見方  そう思う  まあそう思う  あまり思わない  そう思わない
「そう思う」と「まあそう思う」を肯定的評価として捉えています。

<保護者意識調査>

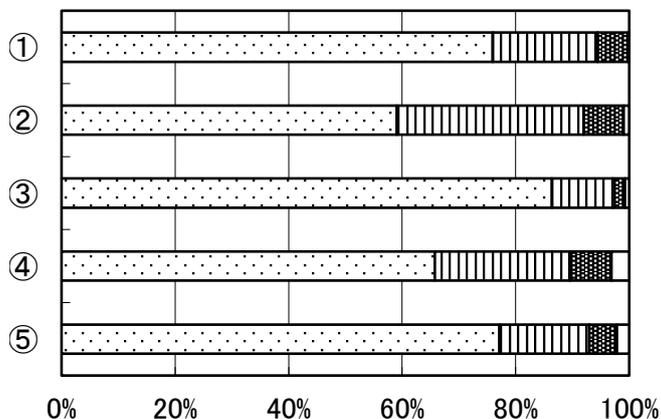
項目	肯定的評価の割合
①進んで体を動かして遊んだり運動したりしている。	82.8%
②食事に関心を持ち，残さず食べようと心がけている。	76.6%
③毎日朝食を食べている。	95.8%
④登校時間の1時間前までに起床している。	83.2%
⑤朝晩，歯みがきをしている。	89.1%
⑥平日のテレビやゲームの時間は，どれくらいですか。 (1時間以内～2時間の範囲)	52.0%

⑥は，  1時間以内，  1～2時間，  2～3時間，  3時間以上



<子どもアンケート>

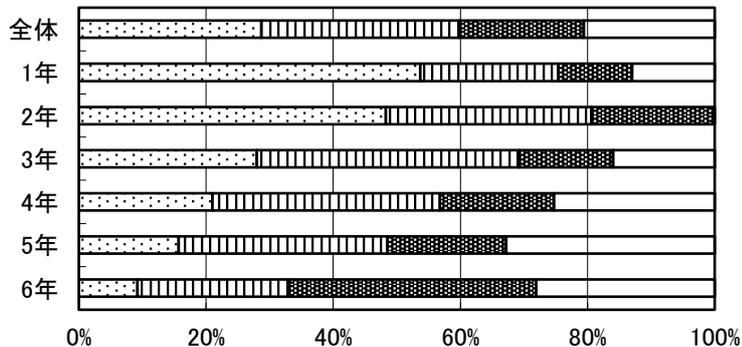
項目	肯定的評価の割合
①体を動かして遊んだり運動したりすることは楽しい。	94.4%
②給食を好き嫌いせず，残さず食べている。	92.2%
③朝食は，毎日食べている。	97.1%
④家を出る1時間前に起きている。	89.5%
⑤毎晩，歯磨きをしている。	92.7%



⑥ 各学年における平日のテレビやゲームの時間

学年				
全体	28.7%	31.1%	19.6%	20.6%
1年	53.7%	21.7%	11.6%	13.0%
2年	48.3%	32.3%	19.3%	0.1%
3年	28.0%	41.3%	14.7%	16.0%
4年	21.0%	35.8%	17.9%	25.3%
5年	15.7%	32.8%	18.7%	32.8%
6年	9.2%	23.7%	39.0%	28.1%

⑥は，  1時間以内，  1～2時間，  2～3時間，  3時間以上



<今後に向けて>

食事の好き嫌いに関する項目では，肯定的な評価をした児童が92.2%，保護者が76.6%でした。児童は，(令和元年度88.1%，平成30年度86.7%)と肯定的評価が続いています。給食では苦手な物も頑張って食べている様子がうかがえます。

起床に関する事項では，肯定的な評価をした児童が89.5% (令和元年度90.6，平成30年82.7)と早起きが習慣化してきました。

今後も，きざキッズすこやか週間の取組を通して，学校でも家でも好き嫌いなく食べることや家を出る1時間前に起きることをより一層保護者と協力しながら定着化を図っていききたいと思います。

運動の楽しさに関わる事項では，肯定的な評価をした児童が94.4%と高評価でした。これからも体育の時間に様々な運動を取り入れ，運動の楽しさを感じることができるよう努めていきたいと思います。